

給食の時に食べ残している人がいた。それを見て私は、食べ物を十分に食べられない人がいるのに、残すのは良くないと思った。食品ロスもなくなるために、できることはないのだろうか。

世界には、食べ物、飲み物、電気、ガス、水道など、家で使うお金を一日、約二百十円におさめなといけない国があるそうだ。そんな貧しい極

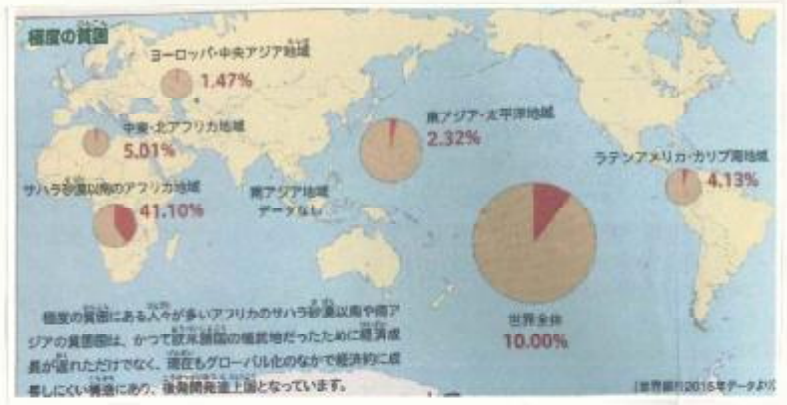
度の貧困状態で暮らす人が世界には、約六、九億人。世界人口の十一人に一人いるそうだ。「極度の貧困」という資料を見ると、世界全体が十パーセント

トなのに対して、サハラ砂漠以南のアフリカ地域の全体を見て、四十一、一パーセントが極度の貧困状態だということがわかる。苦しい生活をしている人々を減らしてい

くために、食べ物をそまっにしないうようにしたり、自分たちが一日に生活するのに必要なお金を減らして、他の国との差をつけないようにしたり、減らした分のお金をき

い金にしたりすることができると思う。確かに、他の国の貧困なんて自分には、関係ないと思っ人もいるかもしれない。しかし、他の国に住んでいるだけで、みんな

同じ人間なのだ。貧困状態で暮らす人々の立場になったときを考えて、これから、



食べ物をもっとにしないためのしほしい。
そして、貧困、森林能心の人々を減らすため
にできることをしてきたい。

〈出典〉「国谷裕子とチャレンジ」。未来の
SDGsの「人間に関するゴール」文溪堂

「EDU TOWN SDG。世界の国や地域が協
力して持続可能な開発を目指すSDGs」

東京書籍